

2007 年度

科目名 文化財学特殊研究（文化財形態論）	対象学科・学年 研究科前文1回生	担当者 阪田 宗彦																														
授業テーマ 上代工芸論（正倉院宝物）																																
授業の概要と目標 上代工芸は国際性豊かな盛唐文化を垣間見させるもので、その中核を占める正倉院宝物に勝るものはない。本講では個々の宝物に視線をあて、素材・意匠・技法・装飾文様について詳述し、宝物そのものの理解を図るとともに、8世紀の唐文化の受容の一端を探る。 スライド、DVD、VHSを使用する。																																
評価方法 受講態度および研究成果によって評価する。																																
テキスト 使用しない。必要に応じてプリントを配布する。	著者	出版社																														
参考書 使用しない。	著者	出版社																														
授業スケジュール・内容 <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td>序章</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2～5.</td> <td>北倉納物</td> <td rowspan="4">} 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。</td> </tr> <tr> <td>6～9.</td> <td>中倉納物</td> </tr> <tr> <td>10～14.</td> <td>南倉納物</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>レポート</td> </tr> <tr> <td>16～19.</td> <td>帳内御物と献物帳</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20.</td> <td>宝物にみるインド的要素</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21～23.</td> <td>宝物の持つ国際性</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24～26.</td> <td>宝物にみる新羅的要素</td> <td></td> </tr> <tr> <td>27～29.</td> <td>21世紀における正倉院宝物の伝存の意義は？</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30.</td> <td>レポート</td> <td></td> </tr> </table>			1.	序章		2～5.	北倉納物	} 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。	6～9.	中倉納物	10～14.	南倉納物	15.	レポート	16～19.	帳内御物と献物帳		20.	宝物にみるインド的要素		21～23.	宝物の持つ国際性		24～26.	宝物にみる新羅的要素		27～29.	21世紀における正倉院宝物の伝存の意義は？		30.	レポート	
1.	序章																															
2～5.	北倉納物	} 素材・形状・制作技術・意匠・文様等を詳述。																														
6～9.	中倉納物																															
10～14.	南倉納物																															
15.	レポート																															
16～19.	帳内御物と献物帳																															
20.	宝物にみるインド的要素																															
21～23.	宝物の持つ国際性																															
24～26.	宝物にみる新羅的要素																															
27～29.	21世紀における正倉院宝物の伝存の意義は？																															
30.	レポート																															